

豊田PCB廃棄物処理事業だより(No.46)

1. 豊田PCB廃棄物処理施設の運転状況について

豊田PCB廃棄物処理施設(豊田施設)の1月の処理実績は下表のとおりです。

1月は、先月末まで行われた定期点検後の稼働確認を行い、各設備が運転上問題がないことを確認して、7日からPCB廃棄物の受入れを再開しました。

今後も、安全かつ確実な処理を継続してまいります。

20年1月の操業実績

種 別		受入台数	抜油・解体台数
コンデンサ類		318 台	304 台
トランス類	大 型	3 台	3 台
	小 型	18 台	18 台
	車 載 型	4 台	4 台

※ 受け入れ後、一時保管してから計画的に処理ラインに投入するので、受入台数と抜油・解体台数に差が生じます。



PCB廃棄物の搬入



密閉容器(漏れ防止型金属容器)
で搬入された大型トランス

2. PCB廃棄物の2月の受入計画

20年2月の受入計画(予定)

種 別		受入台数
コンデンサ類		338 台
トランス類	大 型	3 台
	小 型	24 台
	車 載 型	4 台

2月のPCB廃棄物の受入計画は、左表のとおりです。

コンデンサ類は、豊田市内の少量保管事業者(PCB廃棄物所有数20台未満)を中心に334台、愛知県内から4台受け入れる予定です。

大型・小型トランス類は愛知県内から27台、車載型トランスは静岡県内から4台受け入れる予定です。

3. 環境モニタリング調査について

豊田施設では、豊田市と弊社の間で締結している『豊田ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業に係る安全性と環境保全の確保に関する協定書』に基づき、定期的に環境モニタリング調査を実施しています。

この調査は、PCB廃棄物処理事業の実施により周辺の生活環境に影響を与えていないことを確認するため、年間を通して外部の測定機関により実施しています。1月は①周辺大気、②施設からの排気と排水について行いました。

【次ページへつづく】



周辺大気を採取する装置
(ハイボリュームエアサンプラー)



排水調査のための採水の様子

【前ページからのつづき】

なお、前回11月に実施しました①周辺大気 ②敷地内土壌 ③敷地内地下水 ④施設からの排気と排水に関する測定結果等の概要は下表のとおりであり、全て基準値・目標値以下でした。また、昨年度までの環境モニタリングの結果は、下記のアドレスで公表していますのでご参照ください。

＜昨年11月実施の測定結果＞

区分	測定項目	単位※	測定値	環境基準値等	
周辺環境	周辺大気	P C B	mg/m ³	0.0000096	0.0005以下
		ダイオキシン類	pg-TEQ/m ³	0.034	0.6以下
		ベンゼン	mg/m ³	0.0013	0.003以下
	敷地内土壌	P C B	mg/L	不検出	検出されないこと
		ダイオキシン類	pg-TEQ/g	0.50	1000以下
	敷地内地下水	P C B	mg/L	不検出	検出されないこと
ダイオキシン類		pg-TEQ/L	0.060	1以下	
区分	測定項目	単位※	測定値	管理目標値	
排出	排気	P C B	mg/m ³ N	0.001未満	0.01以下
		ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.0011～ 0.000040	0.1以下
		ベンゼン	mg/m ³ N	0.5未満	50以下
	排水	P C B	mg/L	0.0005未満	0.0005未満
		ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.00082	5以下

※単位について

- ① mg(ミリグラム) : 1000分の1g
- ② ng(ナノグラム) : 10億分の1g
- ③ pg(ピコグラム) : 1兆分の1g
- ④ TEQ: 毒性等量(Toxic Equivalents)
ダイオキシン類は多くの異性体を持ち、それぞれ毒性の強さが違うため、最も毒性の強い『2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラジオキシン』の毒性を基準に、各異性体の毒性を換算して値を示しています。
- ⑤ m³N : 立方メートルノルマル
気体は温度、圧力の変化によって体積が変化するため、0℃、1気圧の状態(標準状態=ノルマル)の1立方メートルあたりの気体の量に換算して値を示しています。

【環境モニタリングに関するアドレス】 <http://www.jesconet.co.jp/facility/toyota/environment/monitoring.html>

4. 安全への取り組み

(1) 設計思想セミナーについて

施設の運転を安全かつ確実にを行うためには、施設がどのような思想で設計されているかを熟知していることが重要です。

このため、弊社では豊田施設を設計・施工した技術者や施設の運転業務の監督者等から設計思想について教育を受け、設計思想の再確認を行っています。

1月は、環境安全対策として重要項目の一つであるセーフティネットについて実施しました。



設計思想セミナーの様子

【セーフティネット】

万一、施設内で事故・トラブルが発生した場合でも、PCB等有害物質を外部へ流出させないための措置です。

弊社の施設では、①排気工程の最後に設けている二重の活性炭吸着装置、②施設内の空気の流れを管理レベルが高いエリアへ集中させて外部に排出しない(負圧管理)、③多重のPCB漏洩浸透防止(オイルパン、防油堤、不浸透性の床、漏洩検知機)等をセーフティネットとして設けています。



交通安全講習の様子

(2) 交通安全講習について

豊田施設では車や自転車による通勤者が多く、また業務上社用車の使用も多いため、身の回りに交通災害の危険性が潜んでいます。このことを日常から認識する必要があります。

1月28日に、豊田警察署から講師を招き、交通安全に関する講習を受講しました。交通ルールを守り、交通安全に対して強い意識を維持してまいります。

連絡先

日本環境安全事業株式会社(JESCO)

(連絡先) 豊田事業所 0565-25-3110

【豊田事業HP】 <http://www.jesconet.co.jp/facility/toyota/index.html>